

Good Job! 東北プロジェクト 福祉×クリエイティブ産業の協働事業

仙台市健康福祉局健康福祉部障害者支援課
仙台市経済局産業政策部産業振興課
NPO法人エイブル・アート・ジャパン



SHIRO
Lab. とものつくる、
実験場。

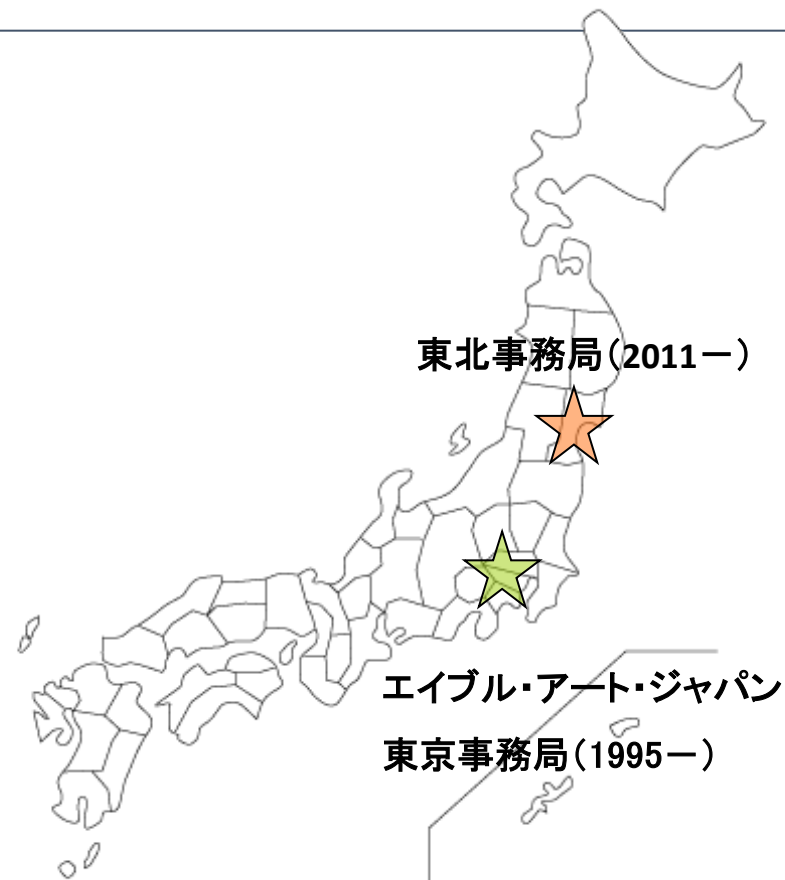
● 団体の紹介

エイブル・アート・ジャパンは、「社会の芸術化、芸術の社会化」をキーワードに活動するNPO法人です。

さまざまな立場の人やグループ・団体が出会い、交流する機会をつくり、社会変革につながる共感や感動を生み出すことを目標に、Empowerment可能性を広げる、Createつくりだす、Networkつなぐ・つながる、Access参加する、Advocacy支援する、5つの領域をもとに活動を実践しています。



NPO法人エイブル・アート・ジャパンのネットワークの特徴



●事業の目的

(1)前提となる問題意識、事業実施により解決したい課題、目的

【問題意識】「ひとが輝く杜の都・仙台総合計画2020」が推進する「障害者が安心して自立した生活を送ることができるまちづくり」においては、障害者の社会参加が保障され、その人らしく自立した地域生活を送ることができるよう、障害者に対する理解と相互交流を促進すること等が挙げられている。

【課題】福祉事業所の現場では、新しい商品開発や販路開拓を行う時間や人材が不足。

商品のデザインやパッケージのトータルブランディングがなされていない、チャリティ的な意味合いの販路が見込めない。



SHIRO
Lab. ひとが輝く。 杜の都。

【目的】

1. アートやデザインのカで、障害ある人の可能性の幅を広げ、「生きがい」「働きがい」のある新しい仕事をつくり、工賃アップを目指す。
2. 地元デザイナーの経験の場やネットワークを作り人材育成を行う。
3. 企業など福祉以外の分野との協働することで、福祉から発信した新しい仕事を創出。プロジェクトの意義を発信することにより、協働する団体、企業、人材を増やす。
4. 仙台市からモデル事業を作り出す。

●平成28年度を振り返ると・・・

48時間デザインマラソン

仙台市八木山動物公園編



アーティストとデザイナーの相互理解。
障害のある人の持つ可能性に気づく機会と
なった。
新たなデザイン活用事例の創出の場。



障害のある人個人3名、福祉事業所4団体（障害のある人13名、職員6名）で22名
デザイナー（学生4名、企業1名）12名
合計34名が参加

●平成28年度で生まれた課題を修正して…

●平成28年度の課題

生産体制

販路

デザイナーの参加者集め



●平成29年度の展望

一般市場での流通をめざし、福祉事業所そしてデザイナーにとって魅力的で経験につながる販売場所を確保したい！



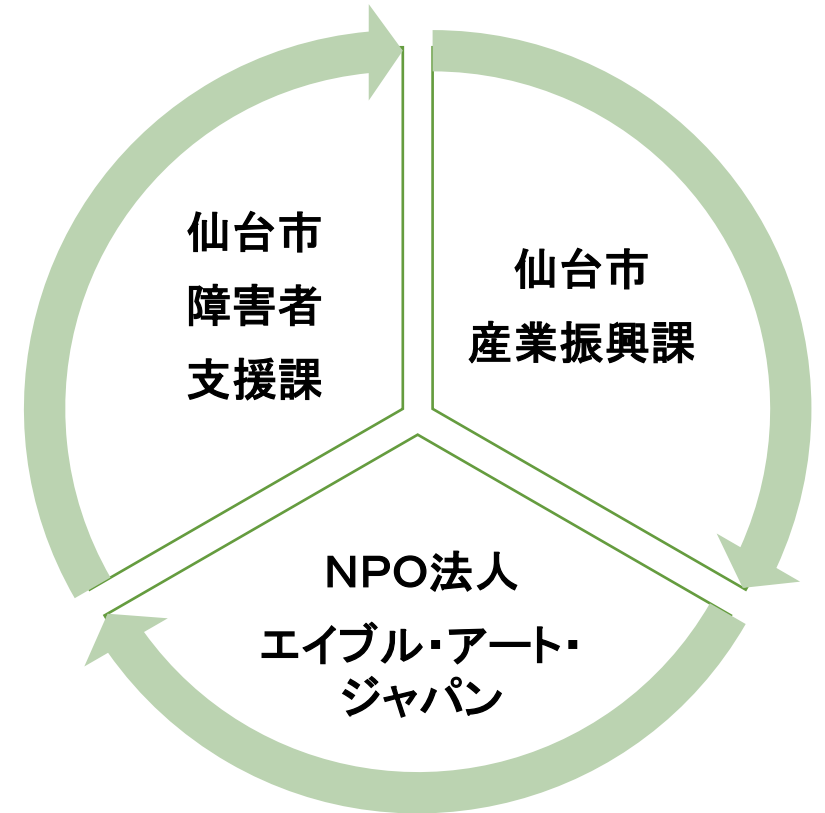
より大きな効果が期待できる新しい仕事の創出につなげたい。



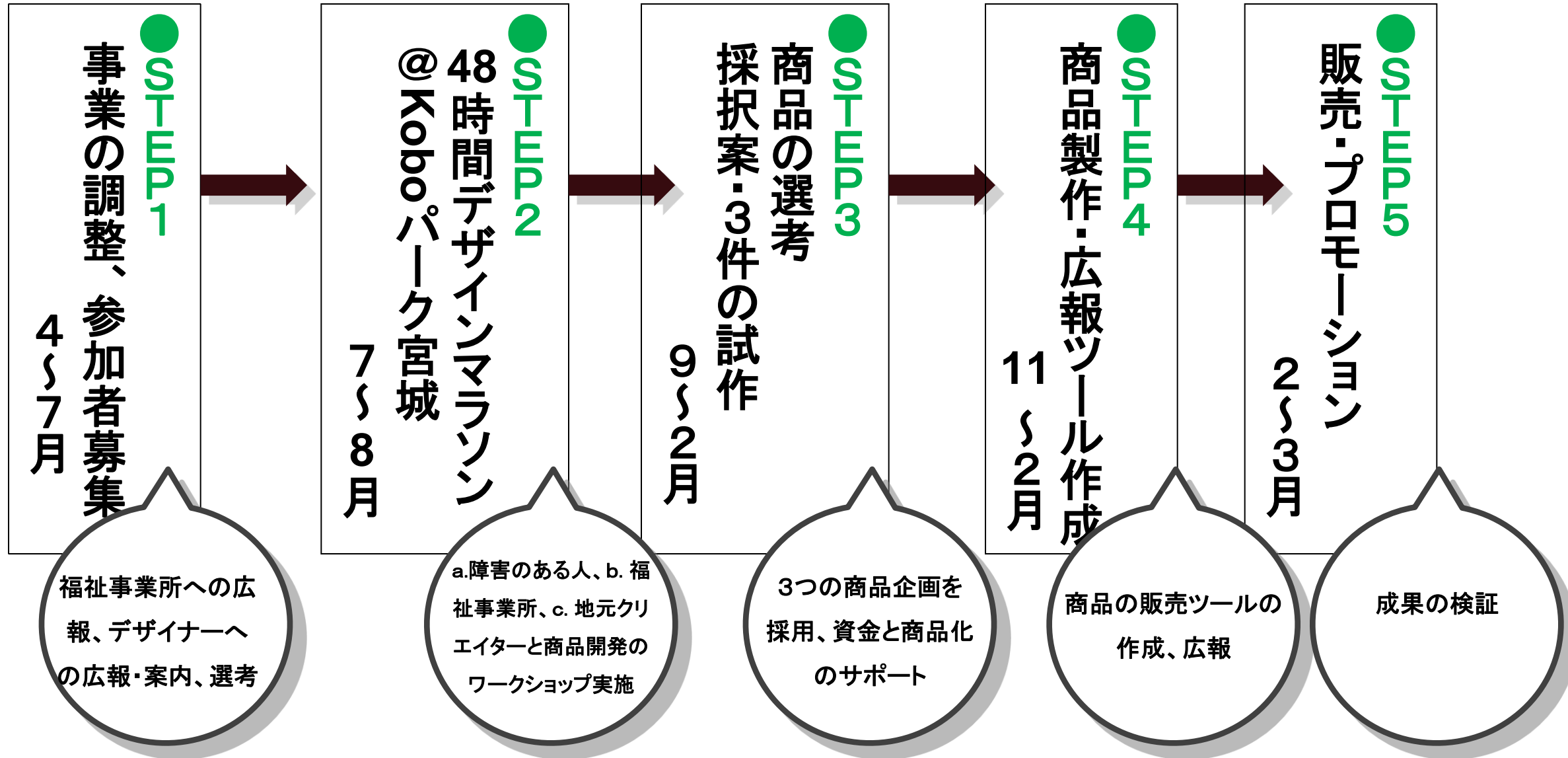
●事業の目的

(2)平成29年度の達成目標

1. デザイナーの発掘と協働、人材育成
2. 仙台市のイベント・スポーツ・観光資源などと協働した48時間デザインマラソンの実施
3. 障害のある人、施設によらない製造および流通の仕組みづくり、工賃獲得



●平成29年度 実施内容とスケジュール



●48時間デザインマラソン@Koboパーク宮城

SHIRO Lab. ともにつくる、実験場。

48時間デザインマラソン
東北楽天ゴールデンイーグルス編
東北楽天ゴールデンイーグルスとコラボした商品アイデアを競う

主催 | NPO法人アイブ・アート・ラボ
協賛 | 株式会社楽天市場、株式会社法人協会の第一創業事務所、一般財団法人法人協会の第一創業事務所、東北楽天ゴールデンイーグルス



48時間デザインマラソン

Koboパーク宮城で集中的にデザイン制作に取り組む2日間
 実施日:野球観戦 2017年7月27日(木) 14:00-
 デザインマラソン 2017年8月1日(火)-8月2日(水) 各10:00-16:00
 会場:Koboパーク宮城(現:楽天生命パーク宮城)

1 試合観戦&チームの顔合わせ

初日(7月27日)は、顔合わせを兼ねてKoboパーク宮城で試合観戦。観覧車のあるスマイルグリーパークでスタジアムの熱気や雰囲気を楽しみながらチームごとに交流を深め、それぞれ気になったモノやコトをスケッチしたり写真に撮ったりしました。



2 48時間デザインマラソン

デザインマラソンでは2日間に渡り、野球観戦で見たもの、感じたことを障害のある人(アーティスト)が絵や文字で表現。それをもとにデザイナーが課題のトートバッグ・タオル・自由商品にアイデアを展開していきました。



3 プレゼンテーション

最後に楽天野球団の関係者も出席してアイデアをプレゼン。5つのチームがそれぞれ多彩なテーマで商品アイデアを発表しました。アーティストの特性を生かしながら、野球観戦初心者や女性などの消費者目線に立ったものや複数の商品に展開できるものなど、ワクワクするような商品アイデアが披露されました。この後、選考を経て3点を採択します。



●採択案・3件の製造・販売

アーティスト
きょうごさん
イラストレーター
つどいの家・コベル

デザイナー
高野明子さん

CHEERS

CASE
A

プレゼンテーション

楽天イーグルスを応援する女性がテーマ。
女性らしいやわらかなタッチと
色彩を生かしました。

アーティストの声
きょうごさん

2日間、集中して楽しく絵を描くことができ、他の作家さんたちの絵や、デザイナーさんの発想力にも刺激を受けました。デザイナーさんと一緒に商品を作り上げるのは今までにない経験でした。こちらが自由に描いた絵を、どのようにデザインするのか、もっと意見交換しながら製作できればと思いました。出来上がったデザインには満足で、自分の絵を取り入れたグッズが販売されるのは初めてなので大変感深いです。発売されて間もなくショップに行き、自分と実家の家族用に買い求めました。お客様の目の留まる場所に美しくディスプレイされています。商品をとてとてもおしく感じます。

デザイナーから
高野明子さん

楽天イーグルスのグッズはスポーティでアメリカン、こついイメージ。私たちは女性3人のチームということもあり、アーティスト2人に共通する強さやわらかさのある表現を生かした商品を考えました。方向を決めずに自由に描いていただき、2人のキャラクターを感じ取ってデザインしました。今回はきょうごさんの絵が採用になりましたが、みつこさん(つどいの家・コベル)の絵も生かすことができたら良かったです。今回、作る側の思いは大切にしながらも、消費者に伝わりやすいデザインの重要性を学びました。普段の仕事ではデザインに関わるプロの人とのやりとりですが、障害のある方や経団の方などいろいろな視点を得て、かけがえのない経験になりました。いろいろな現場でデザインが役立つ可能性も感じることができました。

評価と商品化へのポイント

アーティストの長を生かしていた。女性が普段使いでき、新しいターゲット層を確立していた。風船とクラッチ&クラッチーナ、チャリダーのモチーフで再提案。

アーティスト × デザイナー
Eagle!

「Eagle!」は、女性3人が参加して、楽天イーグルスのグッズをデザイン。アーティスト2人の個性やイーグルスのロゴマーク(E)を生かしました。

CASE
B

プレゼンテーション

アーティストの声
きょうごさん

2日間、集中して楽しく絵を描くことができ、他の作家さんたちの絵や、デザイナーさんの発想力にも刺激を受けました。デザイナーさんと一緒に商品を作り上げるのは今までにない経験でした。こちらが自由に描いた絵を、どのようにデザインするのか、もっと意見交換しながら製作できればと思いました。出来上がったデザインには満足で、自分の絵を取り入れたグッズが販売されるのは初めてなので大変感深いです。発売されて間もなくショップに行き、自分と実家の家族用に買い求めました。お客様の目の留まる場所に美しくディスプレイされています。商品をとてとてもおしく感じます。

デザイナーから
高野明子さん

楽天イーグルスのグッズはスポーティでアメリカン、こついイメージ。私たちは女性3人のチームということもあり、アーティスト2人に共通する強さやわらかさのある表現を生かした商品を考えました。方向を決めずに自由に描いていただき、2人のキャラクターを感じ取ってデザインしました。今回はきょうごさんの絵が採用になりましたが、みつこさん(つどいの家・コベル)の絵も生かすことができたら良かったです。今回、作る側の思いは大切にしながらも、消費者に伝わりやすいデザインの重要性を学びました。普段の仕事ではデザインに関わるプロの人とのやりとりですが、障害のある方や経団の方などいろいろな視点を得て、かけがえのない経験になりました。いろいろな現場でデザインが役立つ可能性も感じることができました。

評価と商品化へのポイント

ポップなデザインで個性が際立っていた。新しいターゲット層を確立していた。女性3人の個性が商品に活かされて消費者に伝わりやすかった。またアーティスト2人に楽天イーグルスのロゴマークを生かしてデザインした。

アーティスト × デザイナー
JOSYO EAGLES

「EAGLES」は、女性3人が参加して、楽天イーグルスのグッズをデザイン。アーティスト2人の個性やイーグルスのロゴマーク(E)を生かしました。

CASE
C

プレゼンテーション

アーティストの声
きょうごさん

2日間、集中して楽しく絵を描くことができ、他の作家さんたちの絵や、デザイナーさんの発想力にも刺激を受けました。デザイナーさんと一緒に商品を作り上げるのは今までにない経験でした。こちらが自由に描いた絵を、どのようにデザインするのか、もっと意見交換しながら製作できればと思いました。出来上がったデザインには満足で、自分の絵を取り入れたグッズが販売されるのは初めてなので大変感深いです。発売されて間もなくショップに行き、自分と実家の家族用に買い求めました。お客様の目の留まる場所に美しくディスプレイされています。商品をとてとてもおしく感じます。

デザイナーから
高野明子さん

楽天イーグルスのグッズはスポーティでアメリカン、こついイメージ。私たちは女性3人のチームということもあり、アーティスト2人に共通する強さやわらかさのある表現を生かした商品を考えました。方向を決めずに自由に描いていただき、2人のキャラクターを感じ取ってデザインしました。今回はきょうごさんの絵が採用になりましたが、みつこさん(つどいの家・コベル)の絵も生かすことができたら良かったです。今回、作る側の思いは大切にしながらも、消費者に伝わりやすいデザインの重要性を学びました。普段の仕事ではデザインに関わるプロの人とのやりとりですが、障害のある方や経団の方などいろいろな視点を得て、かけがえのない経験になりました。いろいろな現場でデザインが役立つ可能性も感じることができました。

評価と商品化へのポイント

個性あふれるデザインで個性が際立っていた。新しいターゲット層を確立していた。女性3人の個性が商品に活かされて消費者に伝わりやすかった。またアーティスト2人に楽天イーグルスのロゴマークを生かしてデザインした。

● 団体が果たした役割 NPO法人エイブル・アート・ジャパン

- ・福祉事業所や障害のある人個人と、デザイナーといった異分野との連携、地域コミュニティ(行政や企業、大学など)と協働するための中間支援
- ・福祉事業所におけるニーズ調査、商品開発コンサルティング
- ・アートワークショップのコーディネート、著作権マネジメント
- ・商品流通販売の確保と調整、広報、情報発信

● 担当課が果たした役割

仙台市障害者支援課・仙台市産業振興課

・障害者支援課

- ①福祉事業所の情報提供、広報
- ②48時間デザインマラソン、販売イベントの運営協力

・産業振興課

- ①地元デザイナーへの広報
- ②販路の開拓、企業やショップへの営業協力

・共通：連携できる課へのつなぎ支援

● 事業経費

収入	3,222,898円	
仙台市負担金	2,892,600	
自己資金	326,298	
労力換算費	4,000	
支出	3,222,898円	
人件費	1,744,200	スタッフ、経理、催事アルバイト
報償費	720,000	専門家謝金(ファシリテータ、ライター、カメラマン、イラストレータ、採択デザイナー、イベント登壇)
交通費	196,154	ファシリテータ、カメラマン、事務局
商品試作材料費289,200	289,200	著作権使用料、参加者商品買取
会場借用費	40,100	デザインマラソン会場使用料
消耗品費	26,404	事務消耗品
印刷費	95,390	募集要項、商品広報ツール、報告冊子
通信費	111,450	電話、送料、インターネット使用料

●事業の成果

(1)事業目的の達成状況

1. デザイナーの発掘と協働、人材育成

→THE6、Fab Lab SENDAI – FLATとの出会い。20–30代の若手クリエイターの参画

2. 仙台市のイベント・スポーツ・観光資源などと協働した48時間デザインマラソンの実施

→スポーツ振興事業団を介して楽天野球団との取り組みが成立、モデル事業に。

3. 障害のある人、施設によらない製造および流通の仕組みづくり、工賃獲得

→製造・流通は楽天野球団。第1弾の製作として、トートバック各30個×3種、タオル各50枚×3種、キーホルダー各50個×5種を販売。

→商品は、グッズショップエスパル仙台店、仙台駅東口店、楽天イーグルスオンラインショップで販売。追加生産分含め500個のアイテムが完売した。

→2018年度から売上に応じた著作権使用料の仕組みに移行。

成果発表&トークイベントを開催

2018年3月17日、ワークショップでファシリテータを務めたライラ・カセムさんを迎え、インクルーシブデザインについてやSHIROlab.の2年間の取り組みについて、トークイベントを開催しました。会場となったコワーキングスペース・シェアオフィス「THE6」(仙台市青葉区)には、今回の参加者のほかこの事業に関心のあるデザイナーや福祉施設関係者が集い、プロジェクトの課題や今後の展望などの意見交換をしました。



2018年度(八木山動物公園)に採択された「多摩多摩会×スカイスター×武田英樹」チームもその後の活動を発表

● 事業の成果

(2) 協働で取り組んだことによる効果（報告書より）

- 担当課と共に、平成28年度の課題を洗い出し、平成29年度の事業計画を策定し、その解決を目指した。楽天野球団に協働先を絞り、コンタクトを取るところから担当課と連携して挑戦し、公益財団法人仙台市スポーツ振興事業団の協力を経て楽天野球団との協働につながった。楽天野球団との交渉や打合せにも担当課とともに臨み、プロジェクトの理念や課題、今後の可能性など共有しつつ、同じビジョンを持って進むことができた。
- 平成28年度同様、産業振興課、障害者支援課ともに広報協力、人材の紹介をしていただいた。企業とのやり取りでスピーディさを求められる場面が多々あったが、都度、それぞれの課の役割を生かした意見などアドバイスをいただいた。デザインマラソンの準備、運営にも人員を派遣していただき、障害のある人の安全やデザイナーとの関係性の繋ぎ支援を行った。産業振興課の職員が障害のある人と交流を持ち、また障害者支援課の職員がデザイナーと知り合うきっかけになり、分野を超えた交流による相互理解が生まれた。行政内部でも課を横断して、実際に現場に出向き課題に触れるきっかけになり、より多様な課題の解決に向けて、市民と行政との関わりが近づくことに期待したい。

● 今後の活動について

事業終了後の取組み、今後の予定

- ・2018年7月に竹中工務店「定禅寺ギャラリー」の依頼により活動紹介の展示を行った。
- ・市民協働提案制度の事業期間が終了したが、平成30年度は、地域産業支援課(産業振興課より業務移管)より業務委託を受け、事業継続につながった。デザイナーの人材育成を目的に、インクルーシブデザインの視点で、障害のある人とデザイナーの実践の場を継続する。

*** 事業名は「クリエイターのための異分野協働機会創出支援事業」(仙台市主催)**

写真は2018年8月21日ナイター観戦、24日・25日 48時間デザインマラソン



● 今後の活動について

事業終了後の取組み、今後の予定

- ・仙台市の観光資源などと連動したプロモーション活動に力を入れながら開発した商品を本格的に流通させ、ノベルティ商品の開発など福祉と企業が結び付く事例を増やしていく。
- ・楽天野球団からのアイデアとして行政依頼のポスターへのイラスト採用、セルコホームさんによる動物商品ノベルティの開発・検討などをすすめる。
- ・デザインマラソンは県外から注目されている。2018年度に愛媛県(障害福祉課)、岡山県(県民局地域政策部地域づくり推進課)で実施され、ノウハウ移転中。